

トヨタ生産方式（問題解決手法）導入による 大規模経営体の経営改善を支援しています！

奥能登農林総合事務所

能登町の農業生産法人Aは、近年の米価下落に対応するため、石川県、トヨタ自動車株式会社（以下「トヨタ」）、農業法人が連携して米の生産工程を改善する「米づくりカイゼンネットワーク」に参加し、経営改善（労働生産性向上）に取り組んでおり、取組時から主食用米に代わる収益源として、試験的に稲を発酵させた牛の飼料（以下「WCS」）生産（2ha）を開始、平成27年からは、本格生産（24ha）に移行しました。

当事務所では、当法人を経営改善のモデル経営体に位置付け、WCSの導入にあたって、①牛の嗜好性調査、②成分分析、③飼料用稲の栽培・収穫指導、④収穫専用機械の整備等の支援を行っています。

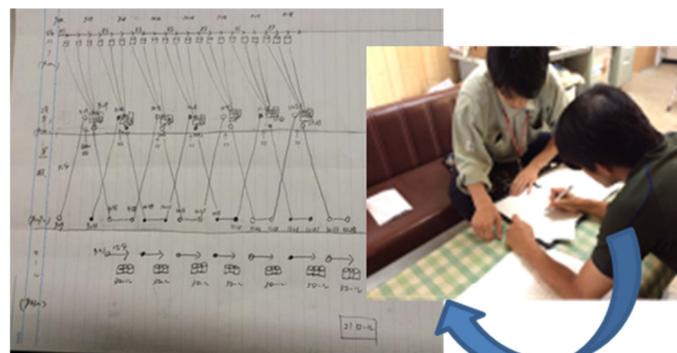
また、生産工程の改善により、現状の従業員数を変えずにWCSの生産目標を達成するために、トヨタと連携し、①従業員間の問題意識の共有、②生産工程の現状把握や問題点の洗い出し、③作業計画の作成、④計画の実行・振り返りといった手順により問題解決を行う経営改善手法の導入を支援してきました。

この結果、WCSの生産目標をおおむね達成することができ、この活動により、従業員一人一人がコスト意識を持ち、自ら行動するようになったことは、大きな成果でした。

今後、農業生産法人Aにおいては、WCS以外の部門でもトヨタ生産方式の実践を進め、経営体全体の経営改善につながるよう支援していきます。また、この事例をモデルに、他の大規模経営体に向けて、トヨタ生産方式を普及していきたいと考えています。



作業管理ボード設置・活用（情報共有）



作業計画案の検討・作成・標準化

問い合わせ先：奥能登農林総合事務所農業振興部
(0768-26-2323)